上田市文化財調査報告書第９９集

# 市　内　遺　跡

## 平成１６年度市内遺跡発掘調査報告書

２００５．３

上　　田　　市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第９９集

# 市　内　遺　跡

## 平成１６年度市内遺跡発掘調査報告書

２００５．３

上　　田　　市

上田市教育委員会

# 例　言

1　本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う平成１６年度市内遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は、国庫補助事業として上田市（上田市教育委員会事務局生涯学習課文化財係）が実施した。

3　現地調査は、生涯学習課文化財係尾見智志が行った。

4　現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興・竹内和好が行った。

5　本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。

6　本調査にあたり、開発施工主・担当課に調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。また、岡城跡の試掘調査に際しては、河西克造氏にご指導を賜った。

7　本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 教 育 長 | 森大和 |
| 教育次長 | 中村明久 |
| 生涯学習課長 | 関和幸 |
| 文化財係長 | 土屋俊彦 |
| 文化財係 | 中沢徳士・尾見智志・塩崎幸夫 |

8　本調査に係る作業は次のとおり分担をした。

| | |
|---|---|
| 現　地　調　査 | 尾見 |
| 整　理　作　業 | 尾見・上原祐子 |
| 写　　真 | 尾見 |
| 本書執筆・編集 | 尾見 |

# ＜ 目　次 ＞

（1）内小屋遺跡（鉄塔建設）…… 1

（2）千曲高校遺跡（共同住宅建設）…… 3

（3）八幡裏遺跡（官舎建設）…… 5

（4）中吉田遺跡（共同住宅建設）…… 7

（5）宮脇遺跡（店舗建設）…… 9

（6）岡城跡・城遺跡（個人住宅建設）…… １１

（7）築地遺跡（市指定文化財周辺整備事業）…… １５

（8）染屋台条里水田跡遺跡１（共同住宅建設）…… １７

（9）染屋台条里水田跡遺跡２（共同住宅建設）…… １９

(10) 上田原遺跡（耕作地整備）…… ２１

出土遺物 …… ２３

染屋台条里水田跡遺跡における調査状況 …… ２５

平成 16 年度試掘調査地点位置図 …… ２７

写真図版 …… ３０

報告書抄録 …… ３４

## （１）内小屋遺跡

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市大字上野 |
| ２ | 原　因 | 鉄塔建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１６年５月７日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを２本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

**遺跡の環境と経過**

内小屋遺跡は、伊勢山の陽泰寺から旧松代街道に沿って北西へ進んだ場所に位置し、東側は、神川の浸食により形成された断崖により隔絶されている。「上田市の原始・古代文化」によると、「縄文時代の石鏃・凹石、後期の土師器などを出土している。」としているのみである。今まで、中世の砥石・米山城跡については県指定されている尾根部分に配置されている遺構を把握しているのみであったが、最近の歩査等により山麓部分の遺構についても、具体的に把握することができるようになってきた。

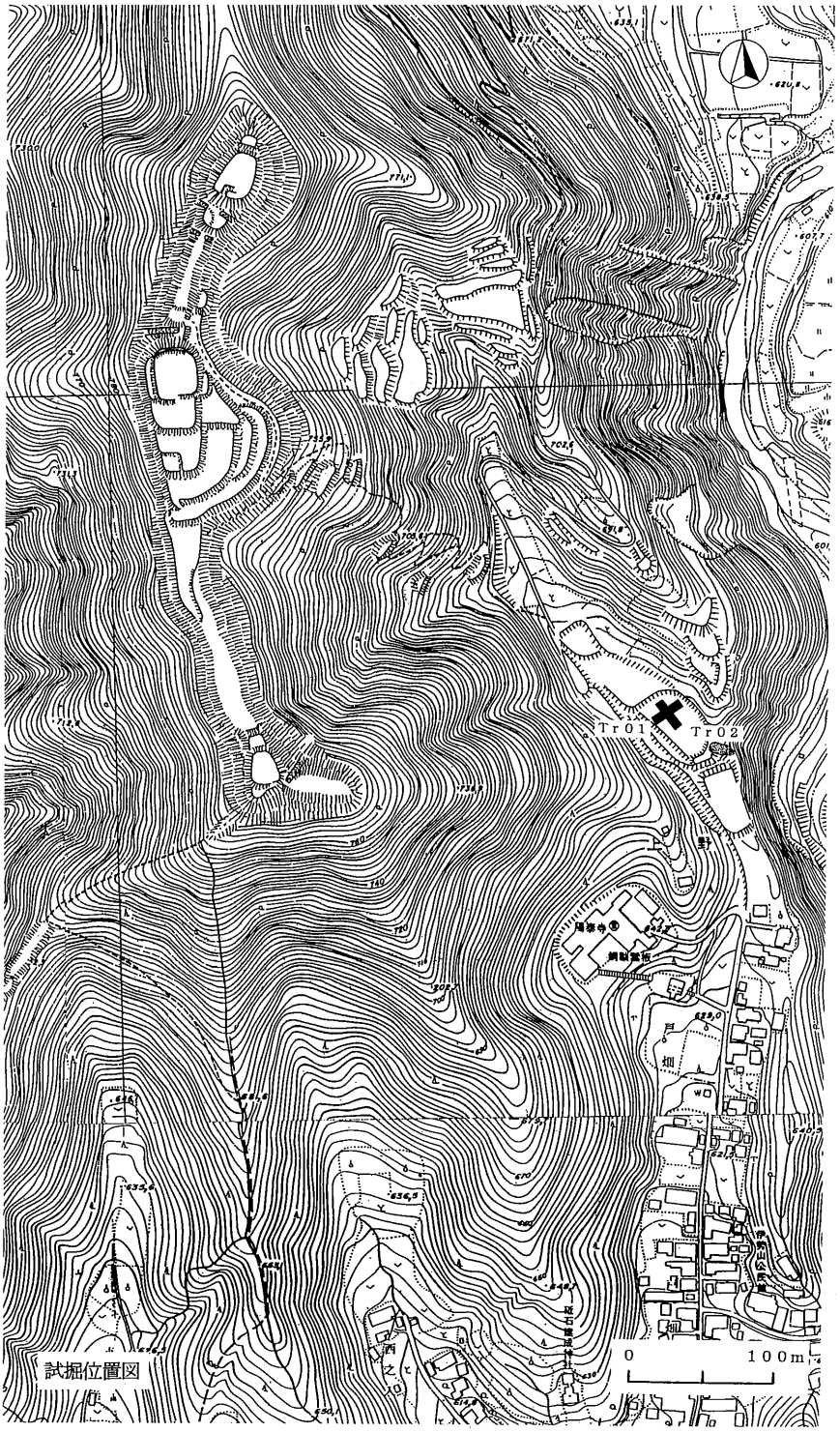
当該事業については、平成１６年４月１４日付で土木工事等の届出があり、それに対して平成１６年４月２３日付で長野県教育委員会より通知があった。それに伴って、上田市教育委員会は平成１６年５月７日に試掘調査を行うこととした。

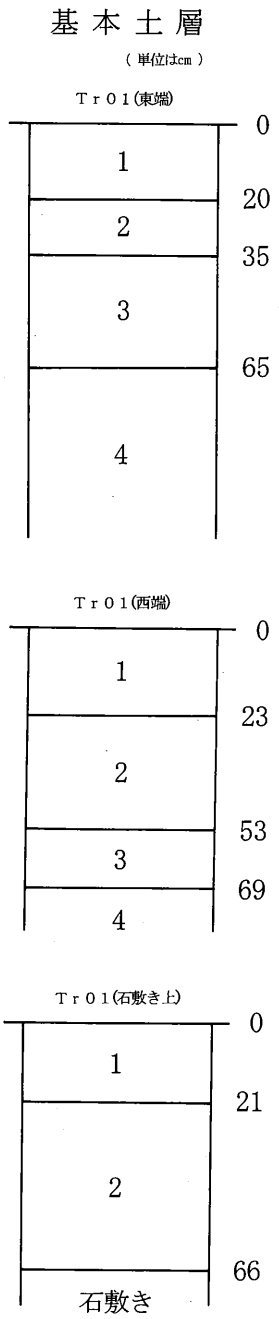
**調査の結果**

Ｔｒ０１・０２を設定して調査を行った。各トレンチとも、耕作土の下は茶褐色土層であった。この土層の下位からは、扁平な川原石が出土した。これらの石には、石敷状の遺構あるいは礎石状を呈するものも確認された。この周辺からは、内耳鍋片なども出土した。地元の人の話によると、昔からこの土地では耕作時に多量の川原石が出土しており、周辺の石積に使用しているとのことであった。また、多量の川原石の出土とその出土状況から推定すると、石敷の遺構があった可能性が示唆される。一方、内小屋遺跡は縄文時代や平安時代の遺跡ともされていることから、トレンチを地山層まで掘り下げたが当該期の遺構・遺物は確認できなかった。

これらのことから、当該地には中世の遺構の存在が考えられるに至った。その為、敷石あるいは礎石が残存している可能性のある場所を避けることを目的に、鉄塔本体付近の表土を取り除いて遺構・遺物の有無を調査した。その結果、鉄塔本体付近には川原石が見られず、遺物も確認することができなかった。

主な出土遺物は次のとおりである。
Ｔｒ０１（内耳鍋片）・Ｔｒ０２（陶器片・内耳鍋片）




1層：耕作土（シルト質）
2層：黒茶褐色土層（シルト質）
3層：黄茶褐色土層（シルト質）
4層：黄褐色土層

第1図　内小屋遺跡（鉄塔建設）

## （２）千曲高校遺跡

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市大字中之条 |
| ２ | 原　因 | 共同住宅建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１６年５月１４日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを３本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

**遺跡の環境と経過**

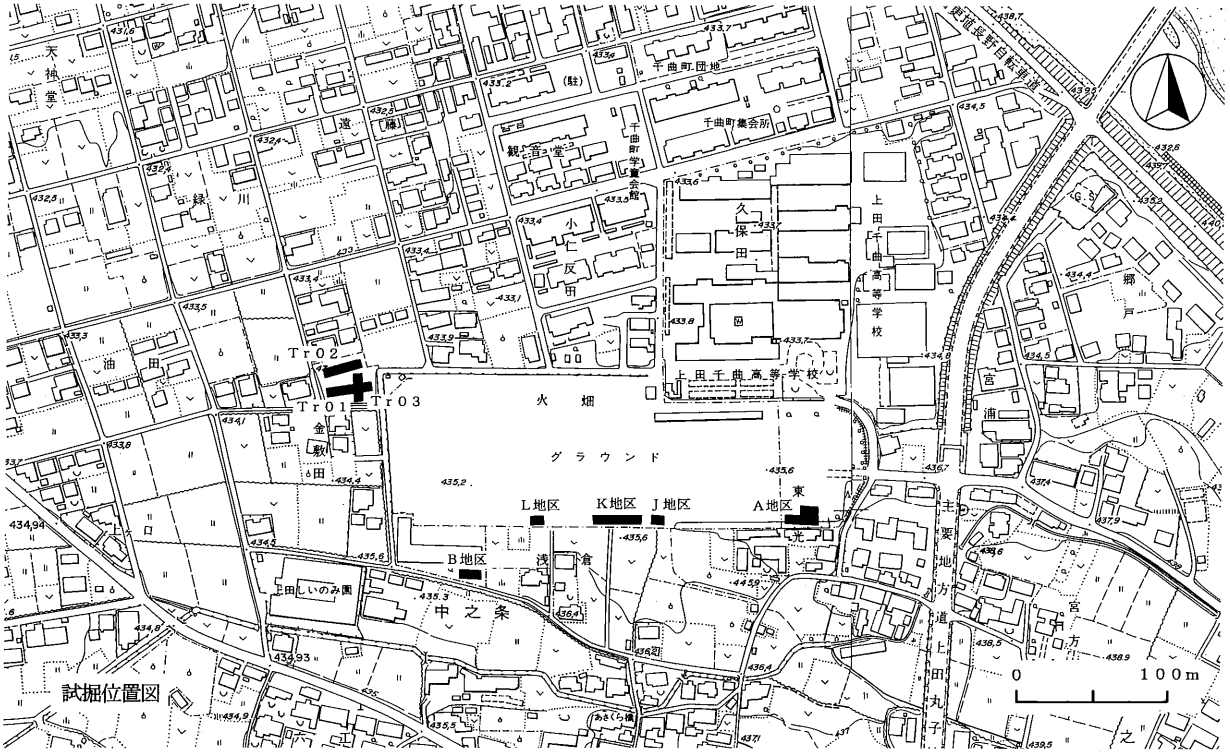
千曲高校遺跡は、千曲高校を中心として帯状に拡がる千曲川の河岸段丘上に立地していると思われる。当該遺跡は多くの小字にひろがっていることから、千曲高校遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。出土遺物から縄文時代・弥生時代後期から古墳時代・奈良、平安時代の遺構が存在すると思われる。千曲高校遺跡では、旧陸軍の上田飛行場建設時に多くの出土遺物があったことが伝えられている。戦後も、千曲高校の移転・修築等により多くの遺物が出土しており、１９７６年には千曲高校の改築に伴い発掘調査が行われた。Ａ・Ｂ・Ｊ・Ｋ・Ｌの各地区で発掘調査を行った。Ａ地区からは、旧陸軍上田飛行場の建物跡と古銭（天祐通宝）の出土が確認された。Ｂ地区からは、平安時代に属するものと思われる竪穴住居跡が確認された。Ｊ地区からは、弥生時代後期の竪穴住居跡が確認された。Ｌ地区からは、土坑が確認された。

本件については、平成１６年４月１６日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成１６年５月１４日に試掘調査を行い、竪穴住居跡等の遺構・遺物を確認した。平成１６年５月２４日に再度の保護協議を行い、基礎工の変更で対応できるかどうかを検討し遺跡保護の合意を得た。

**調査の結果**

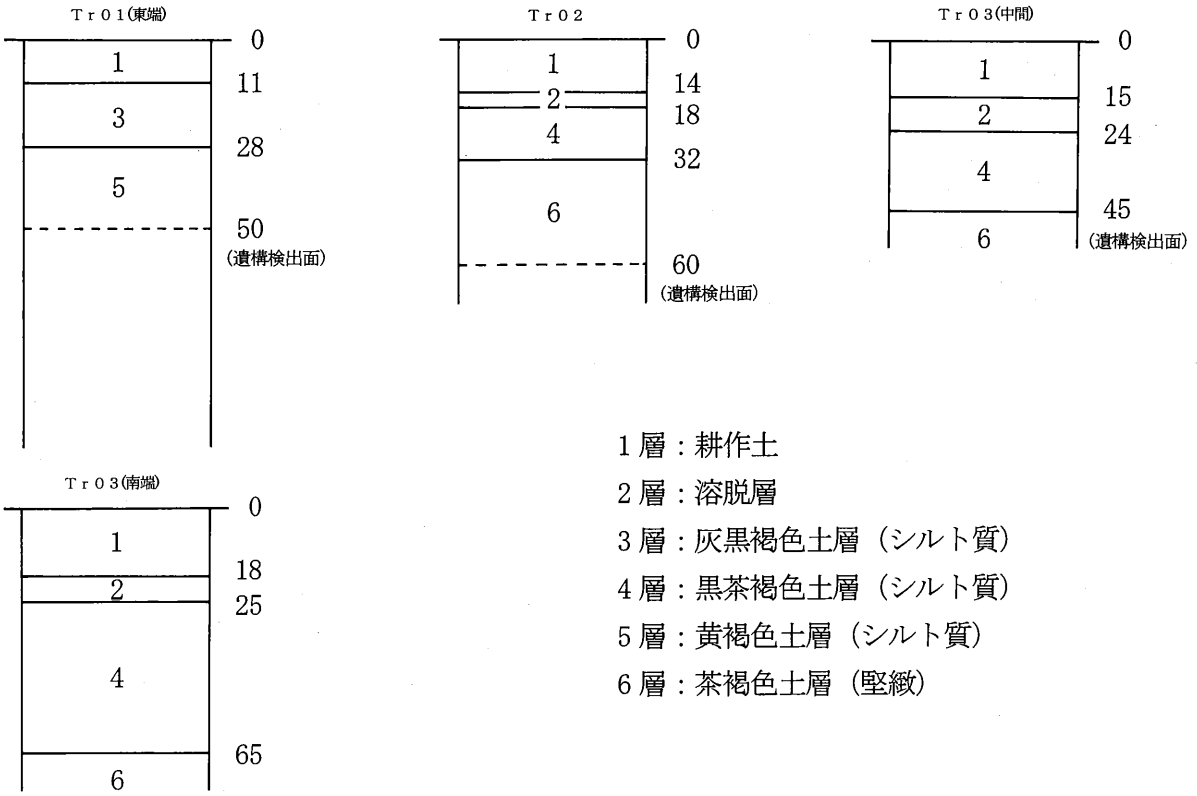
Ｔｒ０１・０２・０３を設定して調査を行った。Ｔｒ０１からは、弥生時代後期の竪穴住居跡（１軒）と土坑が確認された。Ｔｒ０２からは、弥生時代後期の竪穴住居跡（２軒）と土師器片の出土する竪穴住居跡（１軒）が確認された。Ｔｒ０３からも、土師器片が出土する竪穴住居跡と思われるもの（１軒）が確認された。土師器片は、小片が多く時期決定をするには問題があるが、胎土・焼成・器面の調整等から古墳時代に属するものと思われる。また、これらの遺構は地表面から４５～６０㎝の深さで検出された。一方、竪穴住居跡の分布状況をみると、遺構は密集することなく適度な間隔をおいて存在していることが推定される。

主な出土遺物は次のとおりである。
Ｔｒ０１（弥生時代後期の土器片）・Ｔｒ０２（弥生時代後期の土器片・古代の土師器片）・Ｔｒ０３（古代の土師器片）




基本土層

（単位はcm）




1層：耕作土

2層：溶脱層

3層：灰黒褐色土層（シルト質）

4層：黒茶褐色土層（シルト質）

5層：黄褐色土層（シルト質）

6層：茶褐色土層（堅緻）

第２図　千曲高校遺跡（共同住宅建設）

## （３）八幡裏遺跡

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市中央北三丁目 |
| ２ | 原　因 | 官舎建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１６年５月３１日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを２本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

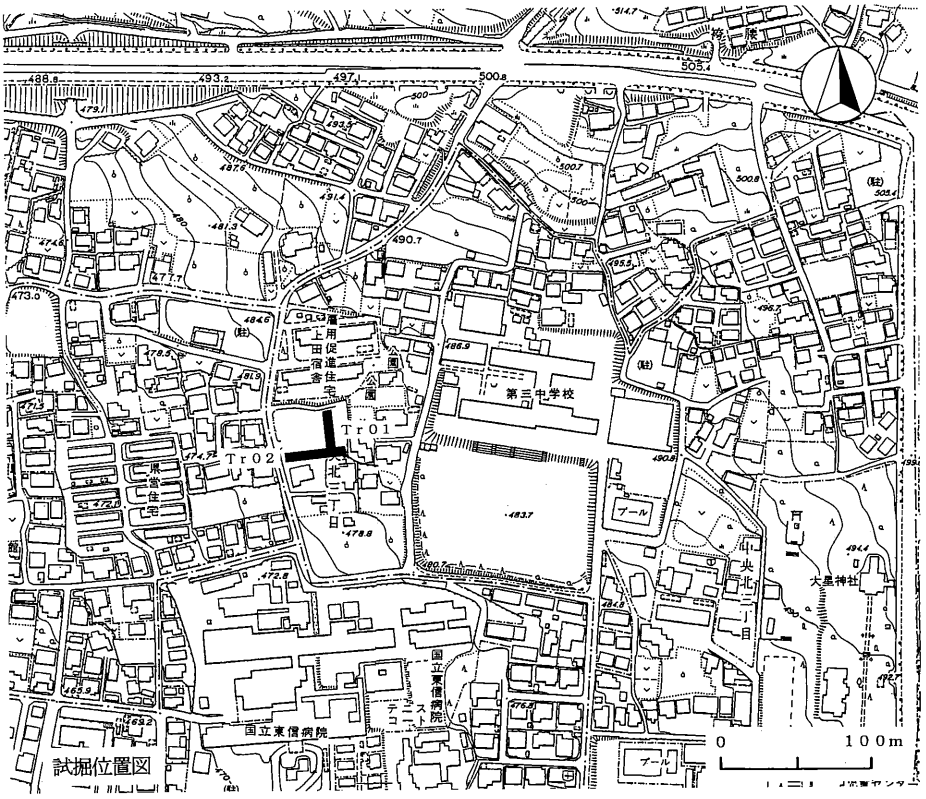
**遺跡の環境と経過**

八幡裏遺跡は、太郎山南麓の黄金沢を中心とした小河川により形成された扇状地の西端部に位置している。これは、思川遺跡・大星前遺跡・海善寺裏遺跡・新田遺跡・道祖神遺跡・八幡東遺跡・八幡裏遺跡などの総称として八幡裏遺跡群とすべき遺跡である。各遺跡からは、縄文時代から奈良、平安時代の土器片等の遺物が出土しているとされている。当該遺跡群では、平成６年から長野県職員住宅・国立長野病院建設および病院関連の整備事業・道路改良工事等が実施され、それに伴い６次にわたる発掘調査が行われている。これらの調査からも、縄文時代から奈良、平安時代にわたる遺構・遺物が確認されている。

上田市教育委員会は、平成１６年４月２８日に関東信越国税局から事業を行う予定がある旨の連絡を受けた。当該地は第５次調査の場所の北に隣接し、その調査結果では「さらに北に広がる可能性がある」（『八幡裏遺跡Ｖ』1999 上田市教育委員会）と指摘されていることから、遺跡の有無の確認を行う必要が生じた。平成１６年５月６日に現地調査を行い、当該地について遺跡の有無の確認を行う必要がある旨を伝えた。平成１６年５月３１日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

**調査の結果**

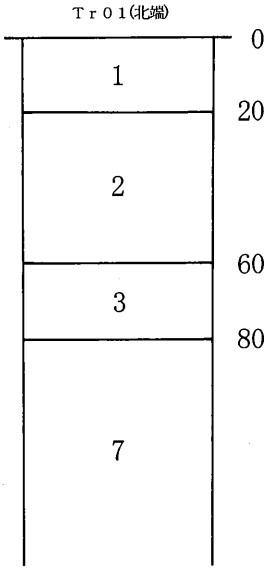
Ｔｒ０１・０２を設定して調査を行った。まず、Ｔｒ０１を北側から南側（山側から谷側へ）へと設定して土砂の堆積状況を確認した。Ｔｒ０１の北側では、三度の埋め立を確認することができた。最下層の埋土の下は砂礫層（７層）であった。南側では、埋土の下には黒褐色土層（４層）を確認することができた。その下には茶褐色土層（５層）が確認され、砂礫層はこの茶褐色土層の下に認められた。第５次調査によると、茶褐色土層（５層）付近が遺構検出面であると考えられる。これらのことから、当該地内南側に東西に延びるＴｒ０２を当該地南側に設定して遺跡の有無を確認した。しかし、遺構・遺物を確認することはできなかった。その結果、遺跡は当該地までは及んでいないことが推定されるに至った。

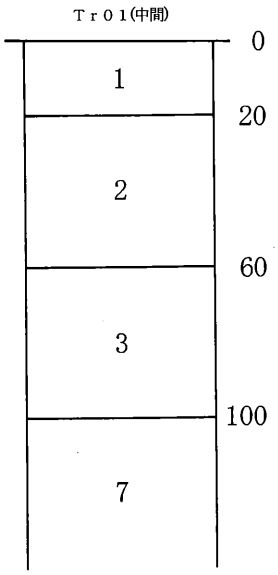


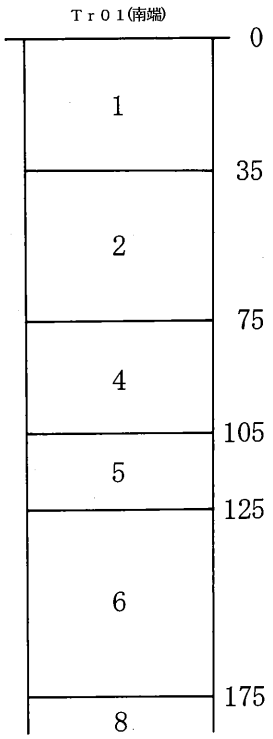
試掘位置図

基本土層

（単位はcm）




1層：埋土①（砕石）
2層：埋土②
3層：埋土③（旧宅地の埋土）
4層：黒褐色土層（礫を含む）
5層：黄褐色土層（シルト質）
6層：茶褐色土層（砂礫を含む）
7層：砂礫層
8層：砂層

第３図　八幡裏遺跡（官舎建設）

## （４）中吉田遺跡

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市大字芳田 |
| ２ | 原　因 | 共同住宅建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１６年６月１０日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを３本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

**遺跡の環境と経過**

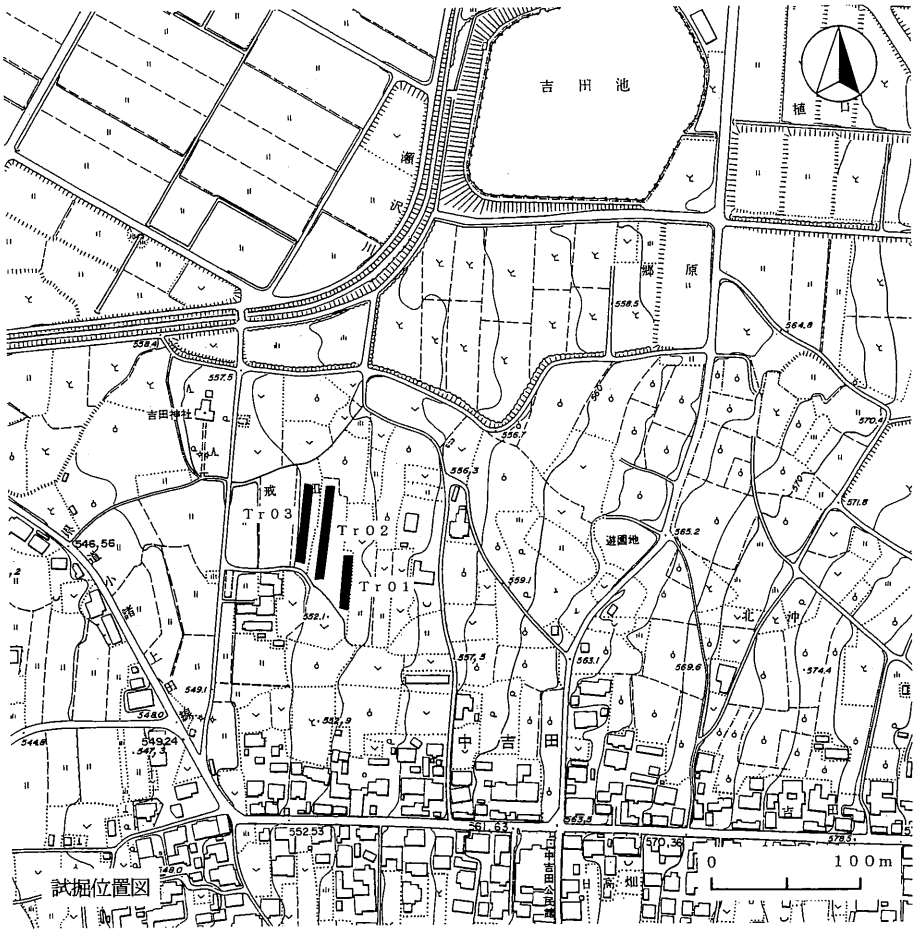
中吉田遺跡は、烏帽子岳山麓線沿いにひろがる遺跡で多くの小字にわたって立地していることから、中吉田遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。出土遺物から縄文時代から奈良、平安時代の遺構が存在すると思われる。当該地は、その中の戎田遺跡に該当し、「上田市の原始・古代文化」によると「土師後期の坏・甑の破片などが出土している。」としている。

本件については平成１６年５月１７日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成１６年６月１０日に試掘調査を行ったが、遺構は確認できなかった。

**調査の結果**

Ｔｒ０１・０２・０３を設定して調査を行った。耕作土の下は灰黒褐色土層であり、その下位からは人頭大から幼児大までの礫が多量に出土したために掘削は困難を極めた。しかし、どのトレンチについても、南側の掘削になると礫群は減少した。地表面には土器片が散見されることから遺構の発見が期待されたが、調査ではＴｒ０３の北端から３点の土器片が出土したのみであった。この土器片は大きな礫が混入する地層に含まれていることから、①付近に存在する遺跡・遺構からの流れ込みか、②古くからの当該地の整地により遺跡が破壊されていることが考えられる。なお、近所で耕作をしていた男性への聞き込みによると、中吉田地区では地表面の下は礫群に覆われているとのことであった。

主な出土遺物は次のとおりである。
Ｔｒ０３（古代の土師器片・須恵器片）




## 基本土層

（単位はcm）

Tr01(中間)

| | |
|---|---|
| 1 | 0–18 |
| 3 | 18–32 |
| 7 | 32– |

Tr02(北端)

| | |
|---|---|
| 1 | 0–23 |
| 4 | 23–47 |
| 5 (礫を多く含む) | 47–91 |
| 8 | 91– |

Tr02(南端)

| | |
|---|---|
| 1 | 0–24 |
| 6 (黄褐色土を含む) | 24–74 |
| 7 | 74– |

Tr03(北端)

| | |
|---|---|
| 1 | 0–40 |
| 4 (礫を含む) | 40–64 |
| 5 | 64–82 |
| 7 | 82– |

Tr03(南端)

| | |
|---|---|
| 1 | 0–22 |
| 2 | 22–31 |
| 4 | 31–44 |
| 6 | 44–76 |
| 7 | 76– |

1層：耕作土
2層：溶脱層
3層：黒茶褐色土層
4層：黒灰色土層
5層：黒褐色土層
6層：茶褐色土層
7層：黄褐色土層（地山）
8層：灰黄褐色土層（地山）

第４図　中吉田遺跡（共同住宅建設）

## （５）宮脇遺跡

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市大字築地 |
| ２ | 原　因 | 店舗建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１６年１０月２６・２７・２８日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを１４本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

**遺跡の環境と経過**

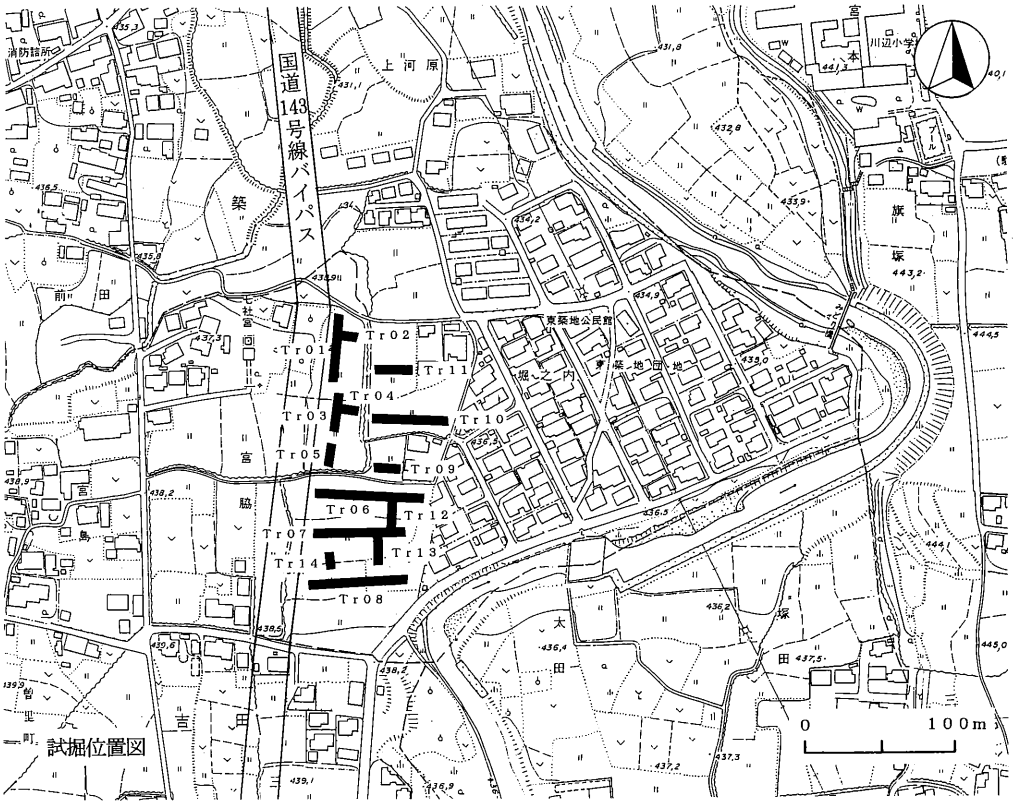
宮脇遺跡は、ひる沢川および産川により形成された自然堤防上あるいは氾濫原に立地している。当該遺跡については平成８年に国道１４３号線バイパス建設に伴う発掘調査が行われている。この発掘調査では七社宮に隣接する自然堤防上からは弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が確認されている。また、自然堤防の背後にあたる調査地区南側からは、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物群が確認された。さらに、七社宮に隣接して、中世の土塁の一部と堀跡が確認された。

本件は、平成１６年４月１５日に県外所在の事業者側から「埋蔵文化財の所在の有無およびその取り扱いについて」の照会があり、平成１６年４月１６日付で回答書を送付した。その後、平成１６年１０月１２日に試掘調査承諾書が送付されてきたことから、試掘を行うこととなった。平成１６年１０月２６・２７・２８日に試掘調査を行ったが、一部に遺構・遺物等が確認された。その為、平成１６年１１月１日付で試掘調査終了報告書を送付し、遺構検出箇所での施工に注意を促した。

**調査の結果**

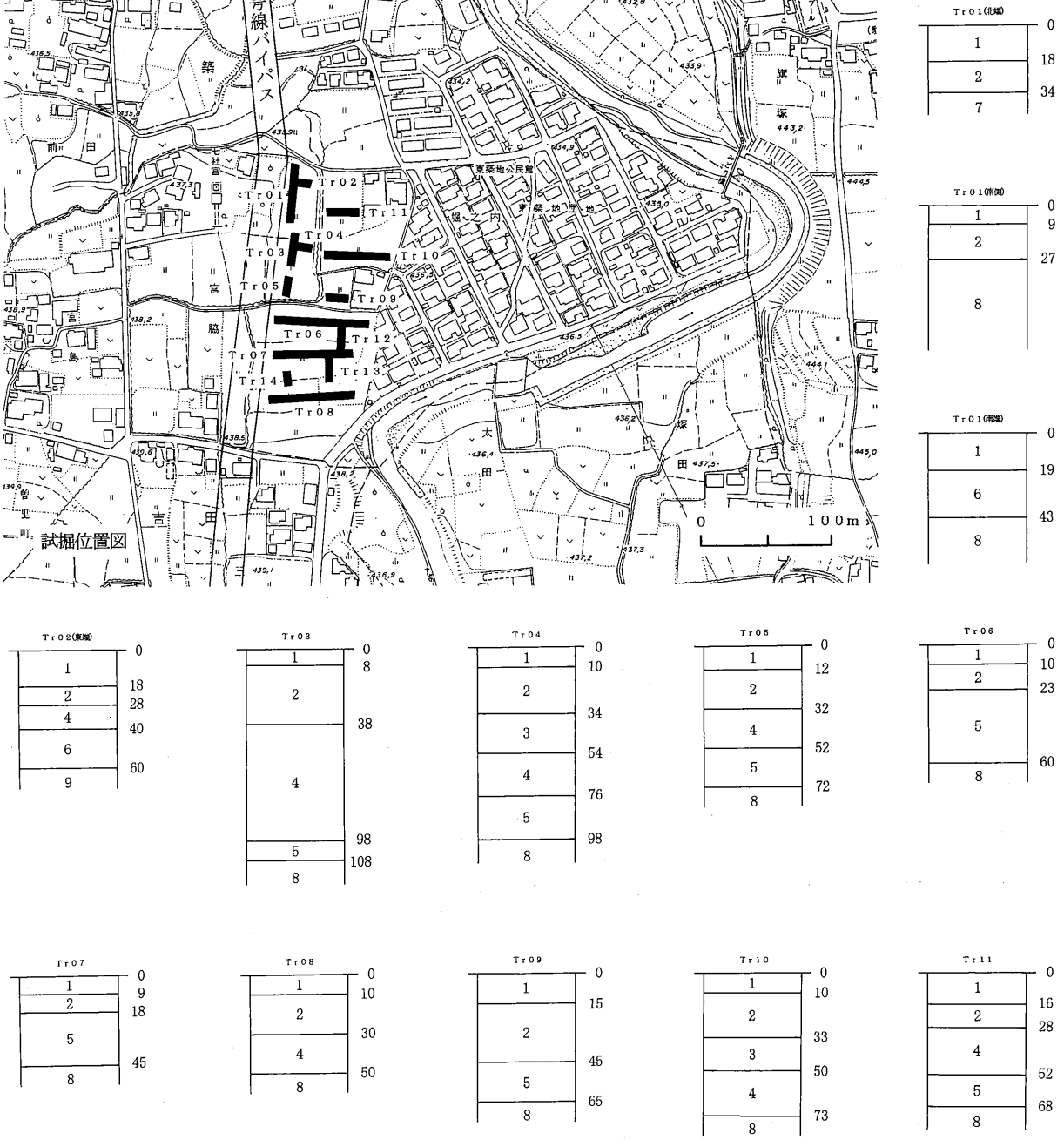
Ｔｒ０１～１４を設定して調査を行った。Ｔｒ０１北側とＴｒ０２については、七社宮から続く半島状の自然堤防を削平して水田としていることが確認された。遺構は確認できなかった。Ｔｒ０１南側とＴｒ０３からは、平成８年の発掘調査地点から続く堀立柱建物群の柱穴と思われる遺構が確認された。しかし、Ｔｒ０４・０５などからは遺構が確認されなかったことから、遺跡はそれほど広範囲に広がっていないことが推定された。Ｔｒ０６・０７・０９・１０・１２・１３・１４からは連続する溝状遺構が確認された。この溝状遺構からは所属時期を示すような遺物は出土しなかった。しかし、これは七社宮を取り囲むように回っており、この地にあったとされる中世居館跡に関係する遺構とも推測される。

主な出土遺物は次のとおりである。
Ｔｒ０１（弥生時代後期の土器片・土師器片）・Ｔｒ０２（土師器片）・Ｔｒ０３（土師器片）・Ｔｒ０５（縄文土器片）・Ｔｒ０６（土師器片）




## 基本土層

（単位はcm）




1層：耕作土（粘性が強い）
2層：溶脱層（粘性が強い）
3層：灰色土層（粘性が強い）
4層：灰黒褐色土層（粘性が強い）
5層：灰褐色土層（粘性が強い）
6層：黄褐色土層（粘性が強い）
7層：砂礫層（地山）
8層：灰黄褐色土層（地山・粘性が強い）
9層：礫層（地山）

第5図　宮脇遺跡（店舗建設）

## （６）岡城跡・城遺跡

１　調査地　　上田市大字岡
２　原　因　　個人住宅建設
３　調査日　　平成１６年１１月２２・２４・２５・２６・２９・３０日・
　　１２月１・２・３日
４　調査方法　　幅約１ｍのトレンチを５本入れる
５　調査担当者　　尾見智志

**遺跡の環境と経過**

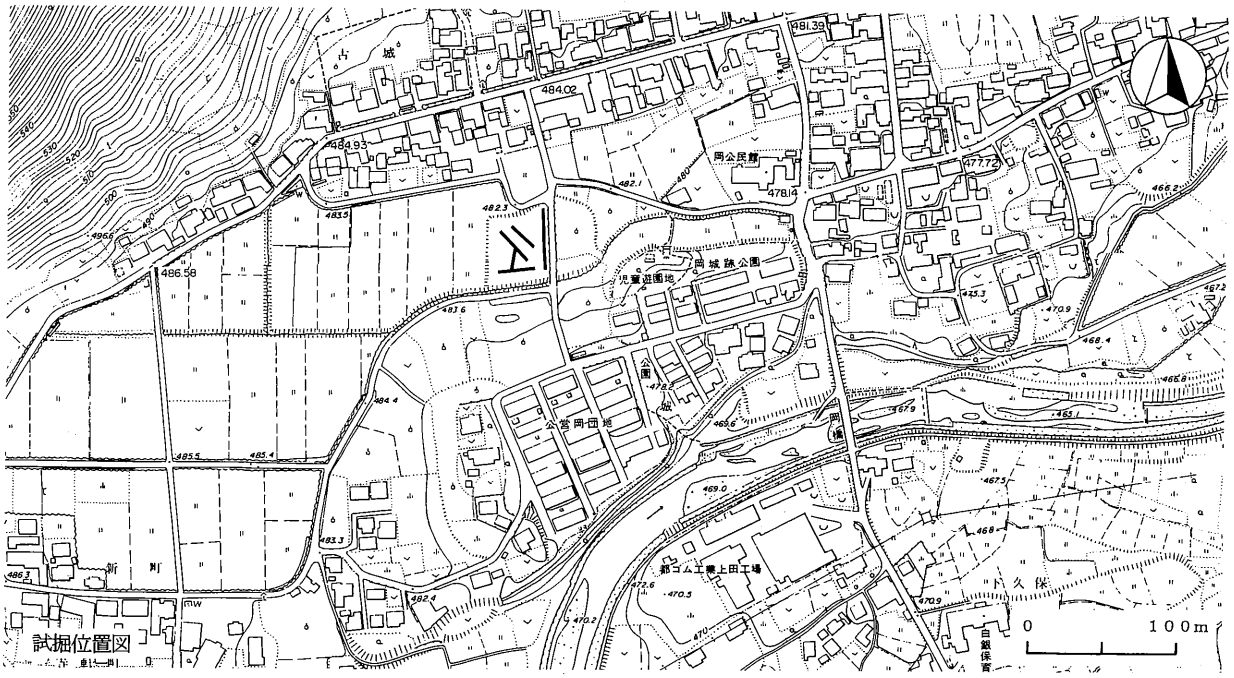
岡城跡は昭和４７年４月１日に旧川西村との合併により上田市指定文化財となった。また、城遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「団地の造成によって、かなりの部分が破壊されている。前期から晩期の土師器、前期の須恵器が、およそ3,000㎡にわたって出土している。」としている。岡城跡は、昭和５２年１月の圃場整備事業に伴う発掘調査で三日月堀と外堀にトレンチを設定して土層観察を中心とした調査が行われた。しかし、圃場整備後の地形の変化および地割の変更による遺構の位置・圃場整備による遺跡の破壊状況等が不明であった。

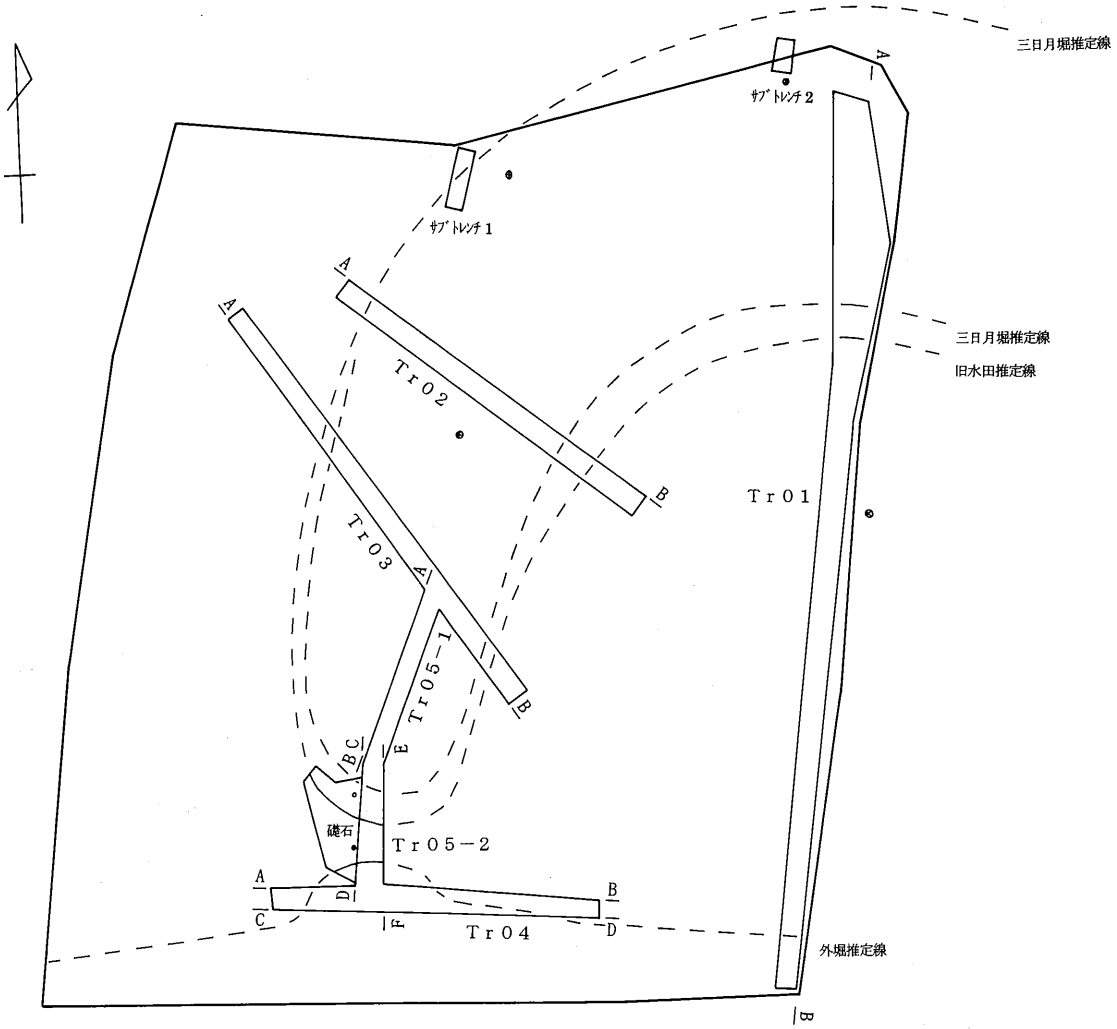
本件は、平成１４年に地権者側から住宅建設の要望が伝えられた。その後、数回の協議を重ねて、遺跡の現状確認を行うこととなった。平成１６年１１月１７日に地権者と埋蔵文化財の保護協議を行い、試掘調査を行うこととした。調査は平成１７年１１月２２日から平成１７年１２月３日まで行った。その結果、三日月堀および外堀の残存状況と位置が確認できた。また、城遺跡についても古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されたことから、城遺跡の北端を想定することができた。

**調査の結果**

Ｔｒ０１～０５を設定して調査を行った。Ｔｒ０１では、その北端に三日月堀の跡が確認された。これは、圃場整備事業による道路拡幅により一部が道路の下となっていることが判明した。Ｔｒ０１の南端では外堀の跡と城遺跡の遺構と思われる土坑が確認された。Ｔｒ０２・０３では三日月堀の規模および形状を確認した。Ｔｒ０４・０５では三日月堀と外堀との関係および形状を確認した。調査結果から、①土層観察により、明治２３年作成の地籍図で確認できる三日月状を呈する水田は三日月堀跡を利用していたこと②三日月堀は最大幅約１８ｍ・最深約３ｍと推定されること③三日月堀の端と外堀の間には礎石をもつ構築物が存在したことが確認された。

主な出土遺物は次のとおりである。
Ｔｒ０１（古代の土師器片・須恵器片・中世の陶器片）・Ｔｒ０３（古代の須恵器片）・Ｔｒ０５（古代の土師器片・須恵器片）



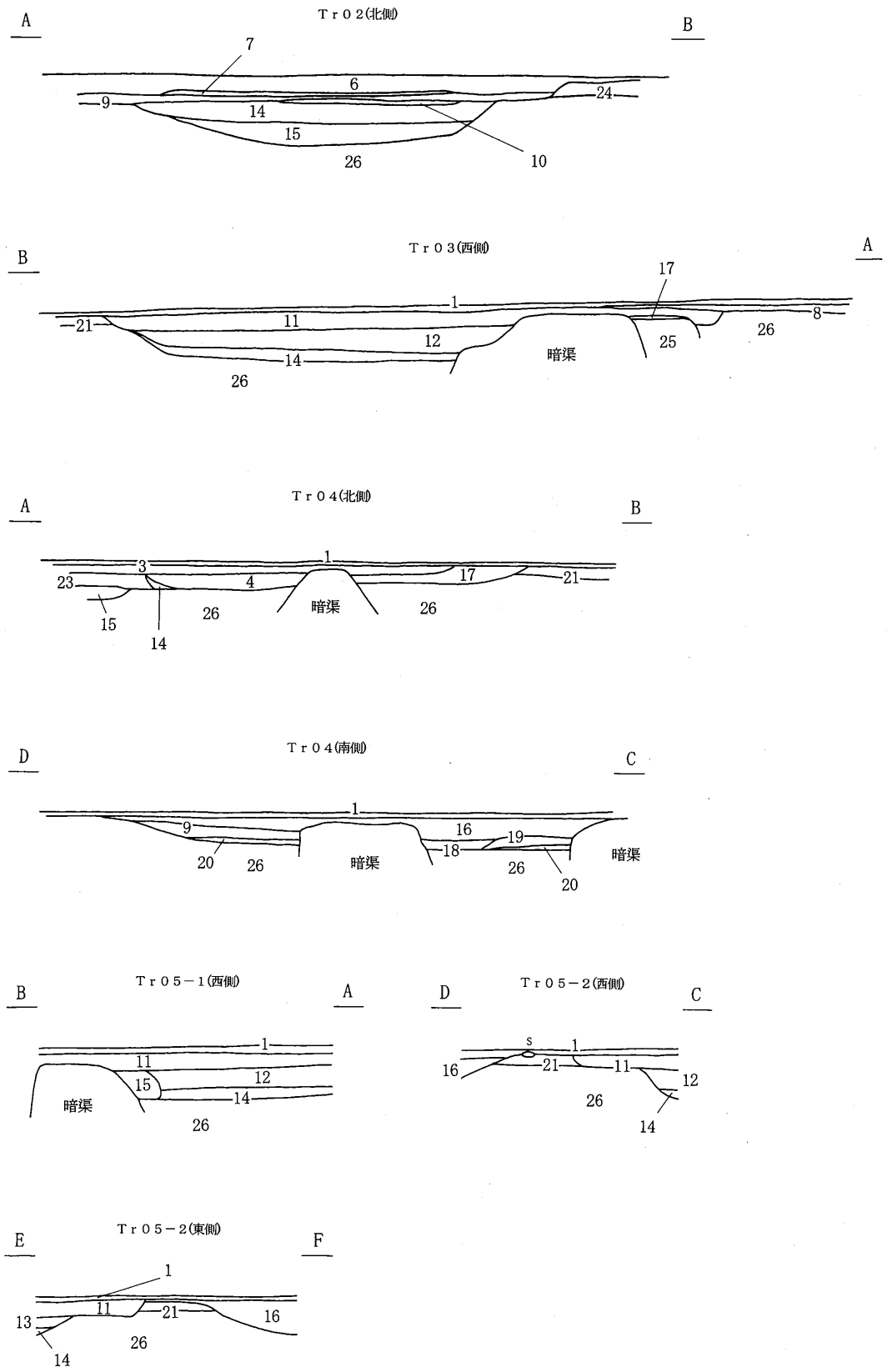




第６図　岡城跡・城遺跡（個人住宅建設）

1 層：耕作土
2 層：埋土①（茶褐色土層・円礫、ゴミ等含む）
3 層：埋土②（黄褐色土層・拳大の円礫を含む）
4 層：埋土③（黒茶褐色土層・拳大の円礫を含む）
5 層：礫①層
6 層：埋土④（灰黒褐色土層・茶褐色土をブロック状に含む）
7 層：礫②層（砕石）
8 層：灰黄褐色土層（砂質）
9 層：灰黒茶褐色土層
10 層：灰黒褐色土層（砂質・礫を含む）
11 層：埋土⑤（灰褐色土層・砂質・黄褐色土混じる）
12 層：埋土⑥（黄褐色土層・灰色土をブロック状に含む）
13 層：埋土⑦（茶褐色土層・黄褐色土混じる）
14 層：灰黒褐色土層（粘性が強い）
15 層：青灰色土層（粘性が強い）

16 層：灰黒褐色土層（拳大の礫を含む）
17 層：礫③層（黒茶褐色土を含む）
18 層：灰色土層（粘性が強い）
19 層：青灰色土層（黄褐色土混じる・粘性が強い）
20 層：緑灰色土層（粘性が強い）
21 層：黄褐色土層（シルト質・灰色土混じる）
22 層：黄褐色土層（粘性が強い）
23 層：暗赤褐色土層（多量の礫を含む）
24 層：砂礫層（黒褐色土を含む）
25 層：砂層（灰黒褐色を呈する）
26 層：礫層（黄褐色を呈する）

第７図　トレンチ土層①




第８図　トレンチ土層②

0　5ｍ

## （７）築地遺跡

１　調査地　　上田市大字築地
２　原　因　　市指定文化財周辺整備事業
３　調査日　　平成１６年１２月６日
４　調査方法　　幅約１ｍのトレンチを２本入れる
５　調査担当者　　尾見智志

**遺跡の環境と経過**

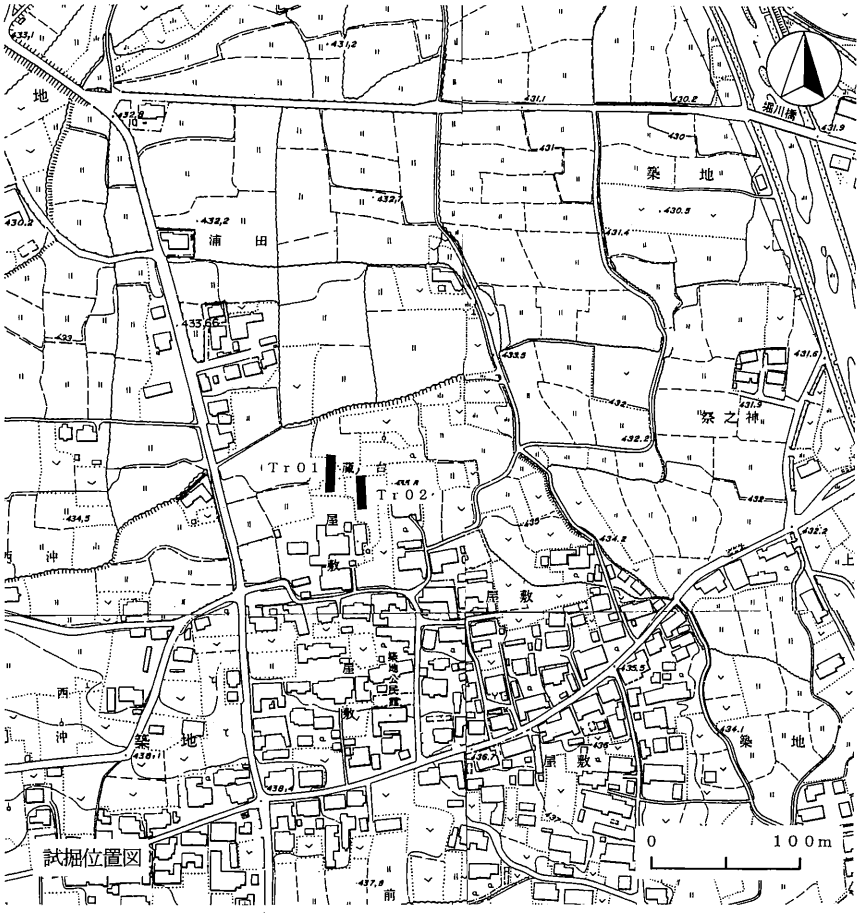
築地遺跡は産川と浦野川が合流する地域に所在し、沖積扇状地上に微高地や後背湿地が認められるとともに、産川により形成された河岸段丘も認められる。築地遺跡は、多くの小字にわたって立地していることから、築地遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。このことから、当該地は築地遺跡群の中の蔵之台遺跡の範疇となり、「上田市の原始・古代文化」によると「弥生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師器などが表採される。」としている。築地遺跡群では、駕籠田遺跡が平成９年に圃場整備事業に伴い発掘調査が行われた。発掘調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡・奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡・堀立柱建物群などが確認された。また、当該地が東山道通過地点に比定されていることから、確認された道路状遺構は堀立柱建物群と共に東山道との関係が注目されている。

本件は、上田市指定文化財の倉沢家住宅の敷地内であり、駐車場を設置するなどの整備・活用計画を立てる上から、遺跡の有無の確認を行うこととなった。平成１６年１２月６日に試掘調査を実施したところ、遺構・遺物が確認された。整備・活用計画については、埋蔵文化財の保護の視点も加わることとなった。

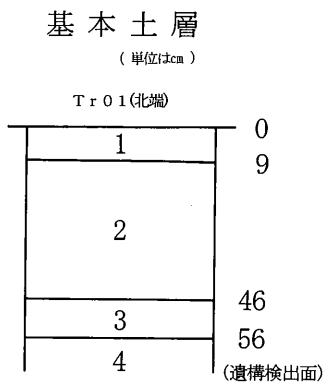
**調査の結果**

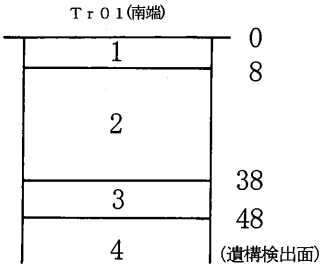
Ｔｒ０１・０２を設定して調査を行った。いずれのトレンチからも竪穴住居跡・土坑が確認された。これらは、出土遺物から平安時代前期に属する遺構と思われる。上田市の埋蔵文化財分布地図では当該地域は遺跡の範囲から除かれていたが、今回の調査結果により遺跡は拡がっていることが確認できた。

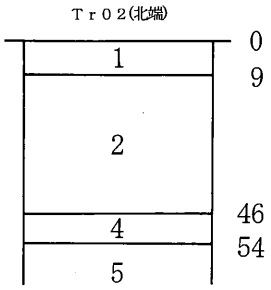
主な出土遺物は次のとおりである。
Ｔｒ０１（古代の土師器片・須恵器片）・Ｔｒ０２（古代の土師器片）

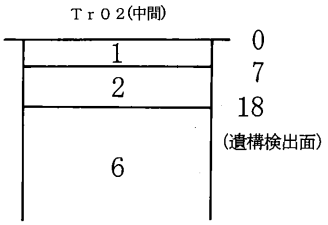


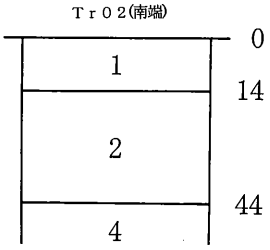

試掘位置図




1層：埋土
2層：茶褐色土層（シルト質）
3層：褐色土層（シルト質）
4層：黄褐色土層（シルト質）
5層：黄褐色土層（礫混じる）
6層：黒褐色土層（シルト質・竪穴住居跡覆土）

第９図　築地遺跡（市指定文化財周辺整備事業）

## （８）染屋台条里水田跡遺跡１

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市大字上野 |
| ２ | 原　因 | 共同住宅建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１７年１月２７日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを４本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

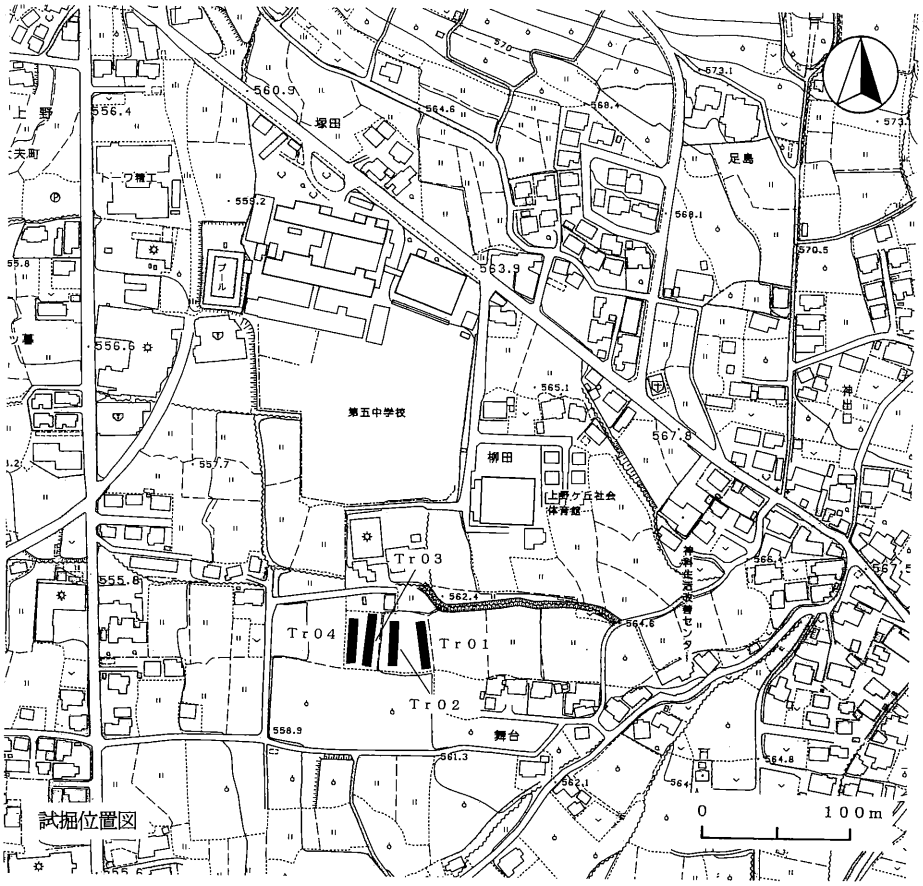
**遺跡の環境と経過**

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件は平成１７年１月１３日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成１７年１月２７日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

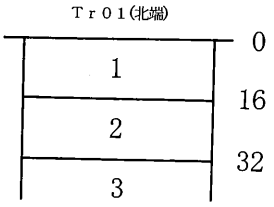
**調査の結果**

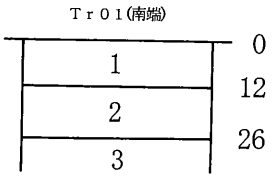
Ｔｒ０１・０２・０３・０４を設定して調査を行った。耕作土の下は黄褐色土層であり、その下に地山となる茶褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できなかった。また、条里水田の痕跡も確認できなかった。

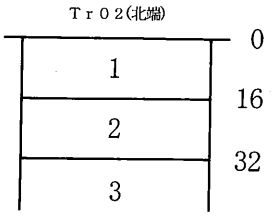


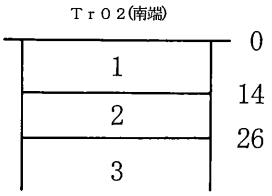

## 基本土層

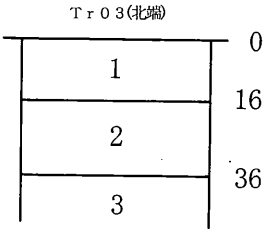
（単位はcm）

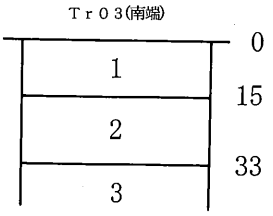


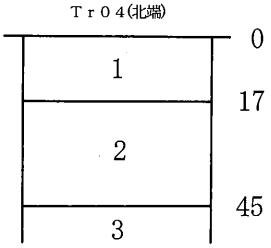



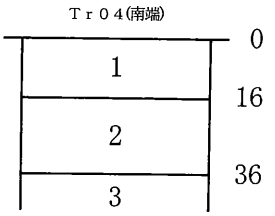




1層：耕作土

2層：黄褐色土層（粘性が強い・灰白色土が混じる）

3層：黄褐色土層（地山）

第１０図　染屋台条里水田跡遺跡１（共同住宅建設）

## （９）染屋台条里水田跡遺跡２

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調査地 | 上田市大字古里 |
| ２ | 原　因 | 共同住宅建設 |
| ３ | 調査日 | 平成１７年２月９日 |
| ４ | 調査方法 | 幅約１ｍのトレンチを３本入れる |
| ５ | 調査担当者 | 尾見智志 |

**遺跡の環境と経過**

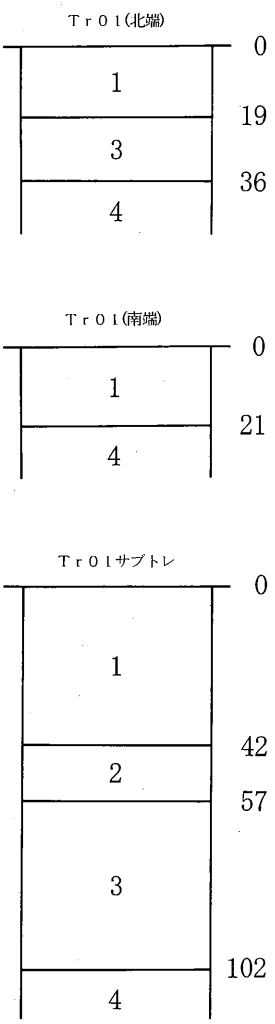
染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

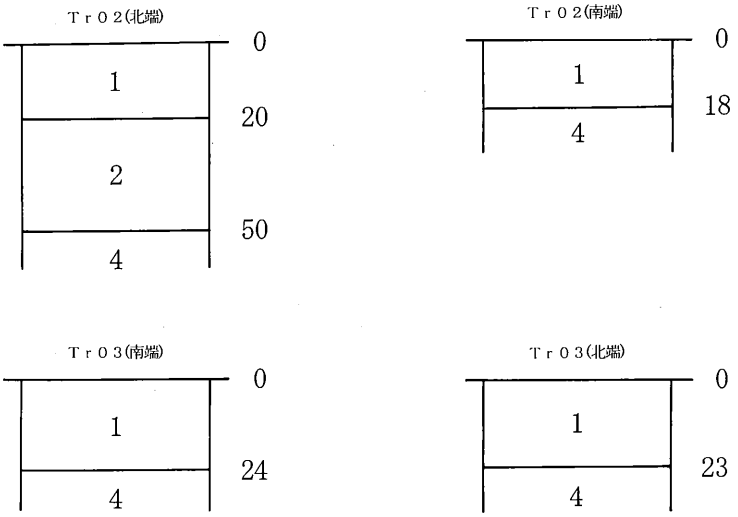
本件は平成１７年１月１３日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成１７年２月９日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

**調査の結果**

Ｔｒ０１・０２・０３を設定して調査を行った。耕作土の下は黄褐色土層であり、その下に堅緻な黒褐色土層あるいは黄褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できなかった。また、条里水田の痕跡も確認できなかった。

基本土層
（単位はcm）




1層：耕作土
2層：黄褐色土層（耕作土が混じる）
3層：黒褐色土層（堅緻）
4層：黄褐色土層（堅緻・地山）

第１１図　染屋台条里水田跡遺跡２（共同住宅建設）

## （１０）上田原遺跡

| | | |
|---|---|---|
| １ | 調 査 地 | 上田市大字上田原 |
| ２ | 原　　因 | 耕作地整備 |
| ３ | 確 認 日 | 平成１６年５月２５日 |
| ４ | 確認方法 | 現地歩査 |
| ５ | 確 認 者 | 尾見智志 |

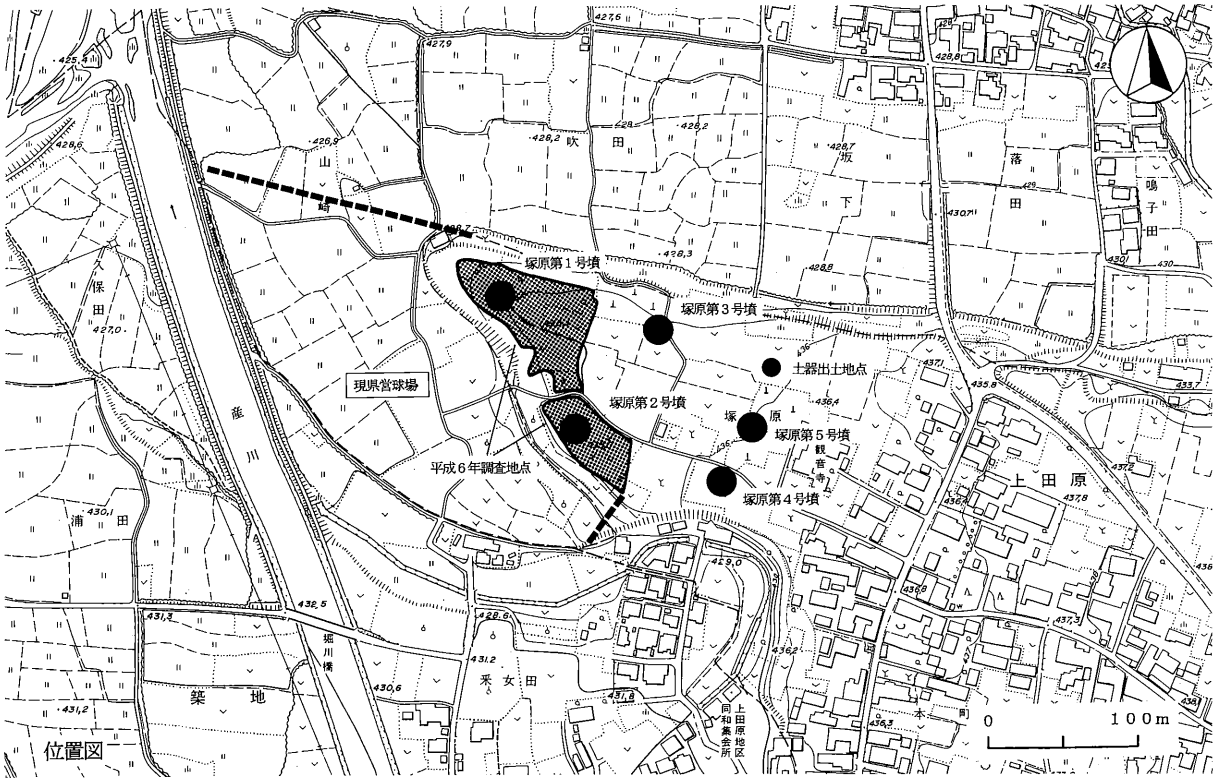
**遺跡の環境と経過**

上田原遺跡は、千曲川の第２段丘面で通称上田原台地と呼んでいる台地端部に立地している。上田原遺跡は、多くの小字にわたって立地していることから、上田原遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。当該遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡であると思われる。本件の位置は塚原遺跡の範疇に該当し、「上田市の原始・古代文化」によると、「縄文前期の南大原式・下島式、中期の勝坂式・加曽利Ｅ式の土器、石鏃・打製石斧・凹石、後・晩期の土師・須恵器片などを出土している。また、この畑地内から多くの五輪塔を出土し、戦国時代の墳墓址と考えられる。弥生後期の箱清水式土器、後・晩期の土師器などが表採される。」としている。塚原遺跡は、平成６年に県営球場建設に伴い発掘調査が行われた。発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居・縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土坑群・弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居、周溝墓、木棺墓・古墳時代後期の古墳、礫床墓・平安時代の竪穴住居、土坑墓などが確認された。

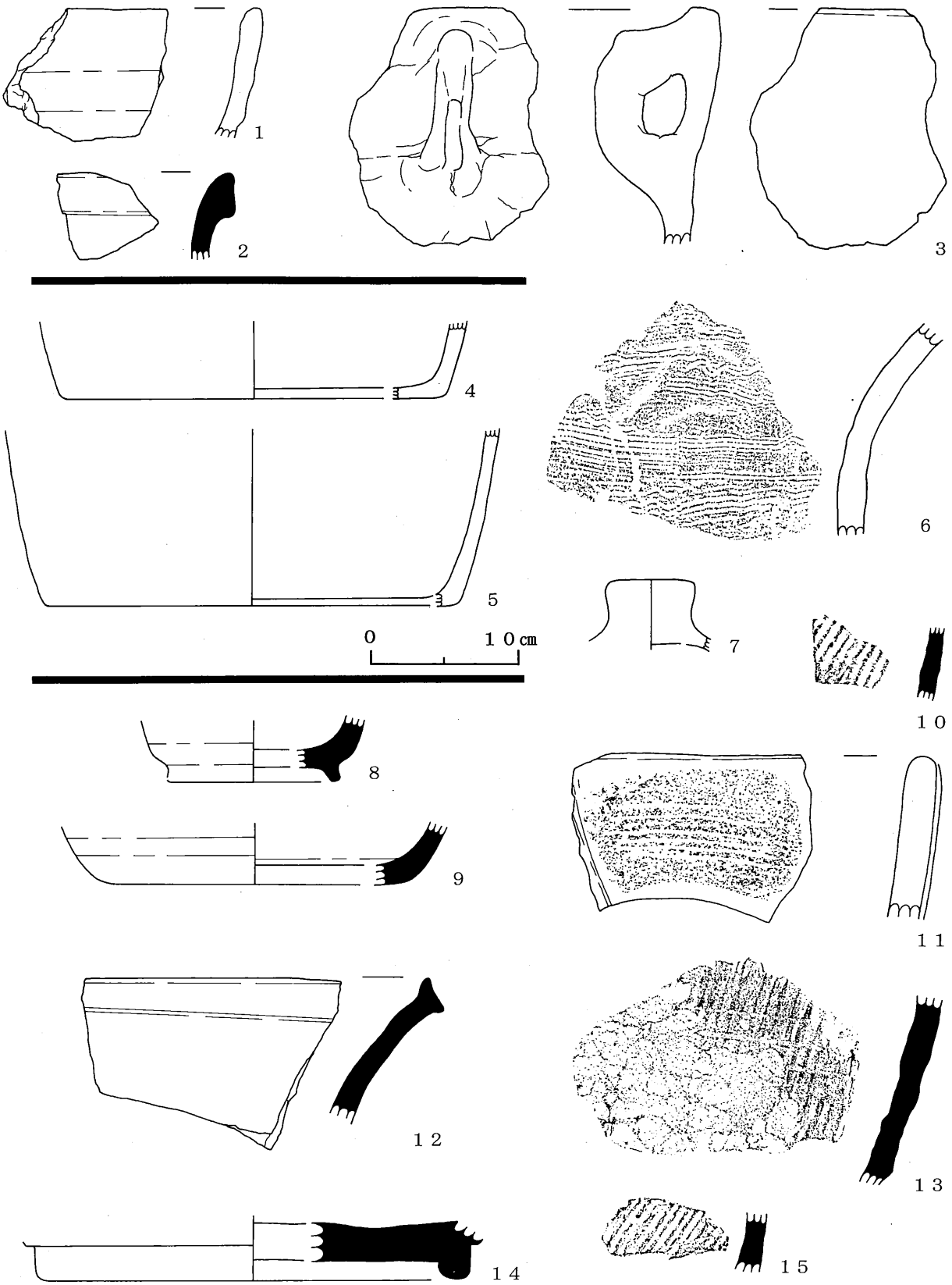
本件は、平成１６年５月に畑の耕作中に土器が出土したことを、上田市立国分寺資料館の倉沢館長を経由して連絡を受けたことによる。その後、耕作関係者から土器の引き渡しを受けるとともに現地の歩査を行った。現場では、すでに土器の出土した耕作による穴は埋められており、遺構の存在等の確認をすることはできなかったが、地表面を精査したところ、同一個体と思われる破片が採取された。

**調査の結果**

出土した土器は、縄文時代晩期から弥生時代前期にみられる条痕文系土器である水神平式土器の系譜に該当するものであることが確認された。器種は壺で、胎土に長石等を含む非在地系の胎土であった。破片は口縁から頸部・胴部・底部まで揃っており、同一個体のものとみられるが、完全復元できるほど多くの破片は揃っていなかった。このことから、土器は何らかの遺構に伴って埋まっていた可能性が高いことが推定される。また、この地点から土器が出土したことから、平成６年の発掘調査地点から当該地域までの範囲に縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての遺跡が拡がっていることが確認された。



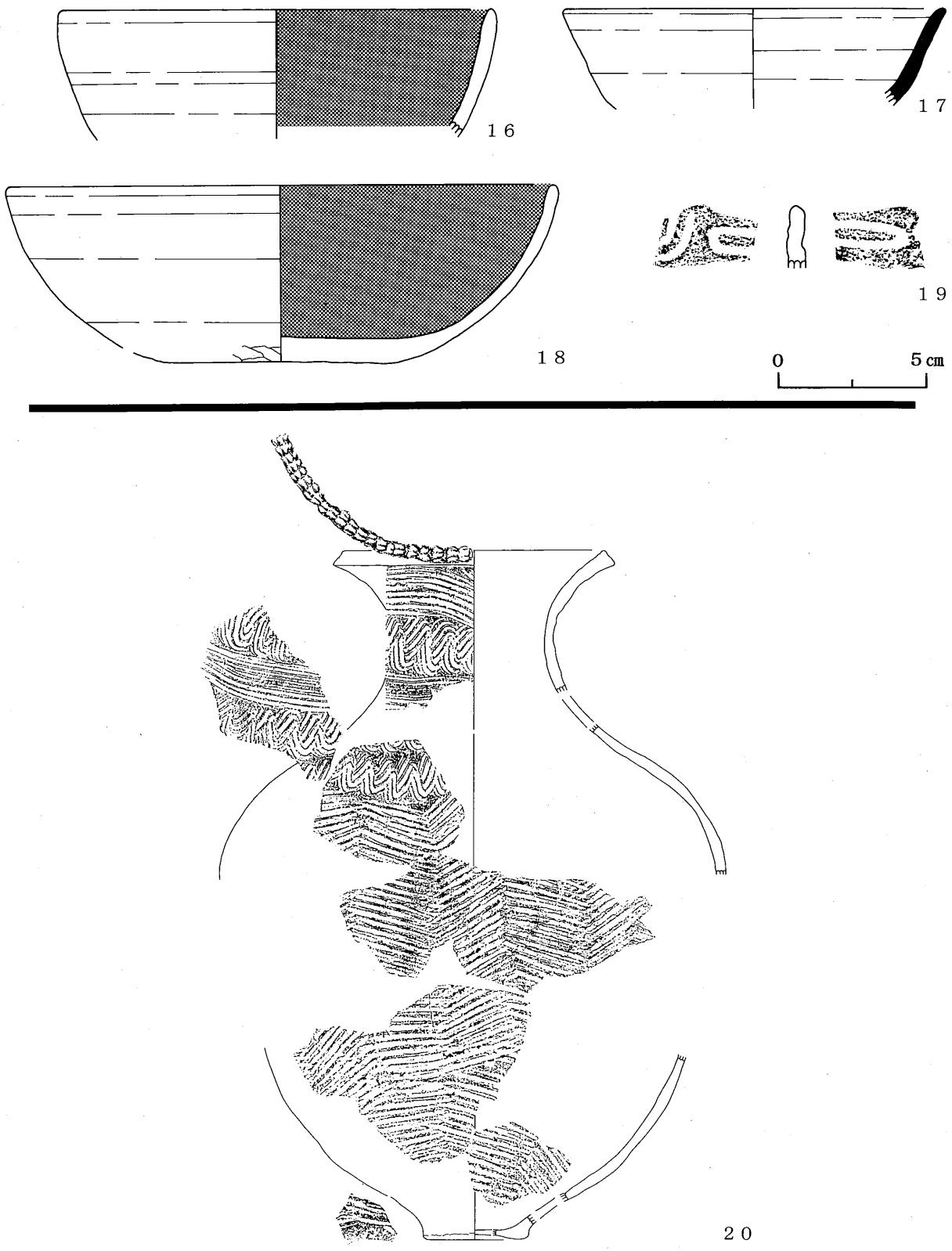
第１２図　上田原遺跡（耕作地整備）



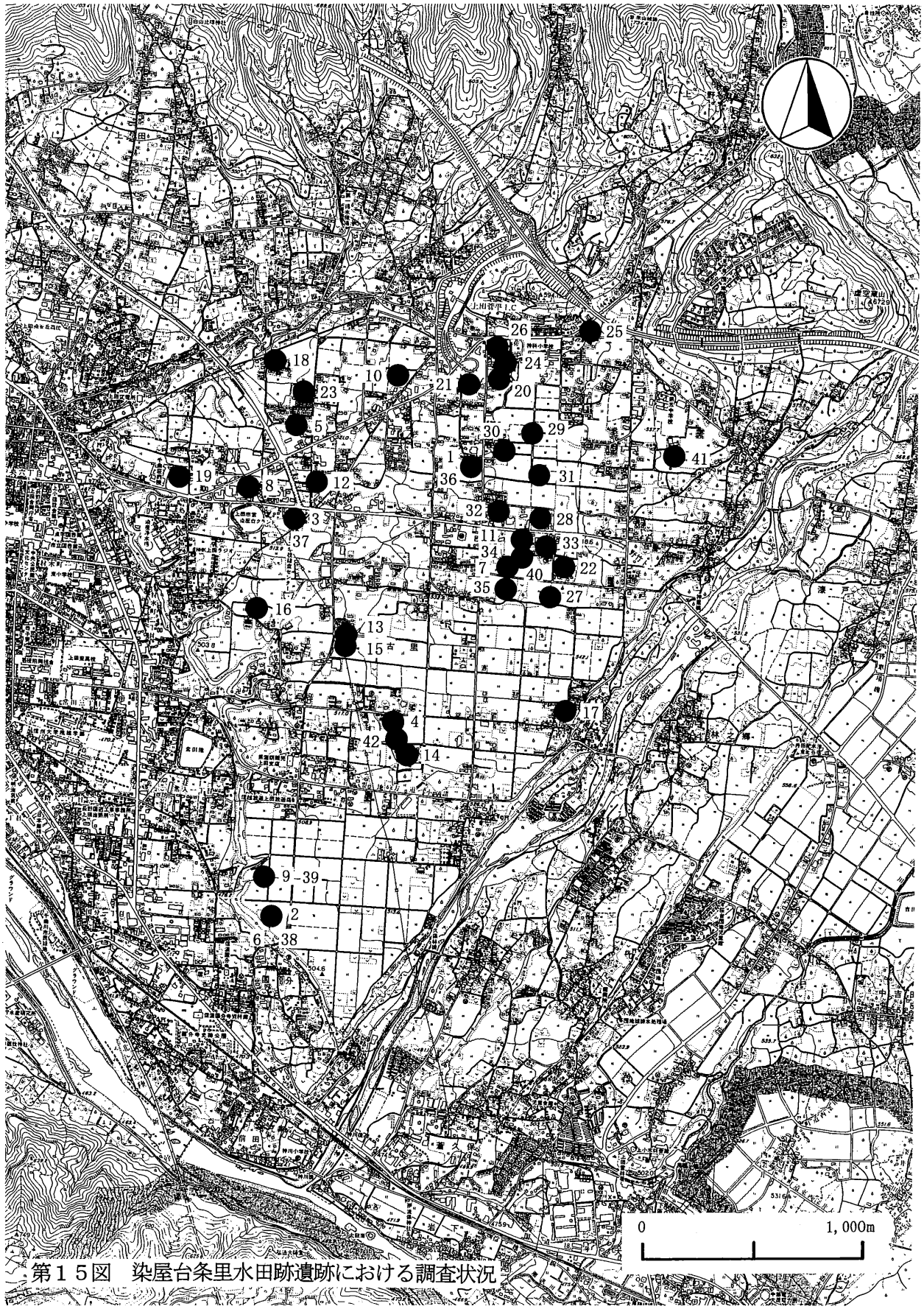

第１３図　試掘出土遺物①

(1～5:内小屋、6・7:千曲高校、8・9:中吉田、10・11:宮脇、12～15 岡城跡)

0　5cm




第１４図　試掘出土遺物②　　(16～18:築地、19・20:上田原)




第１５図　染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

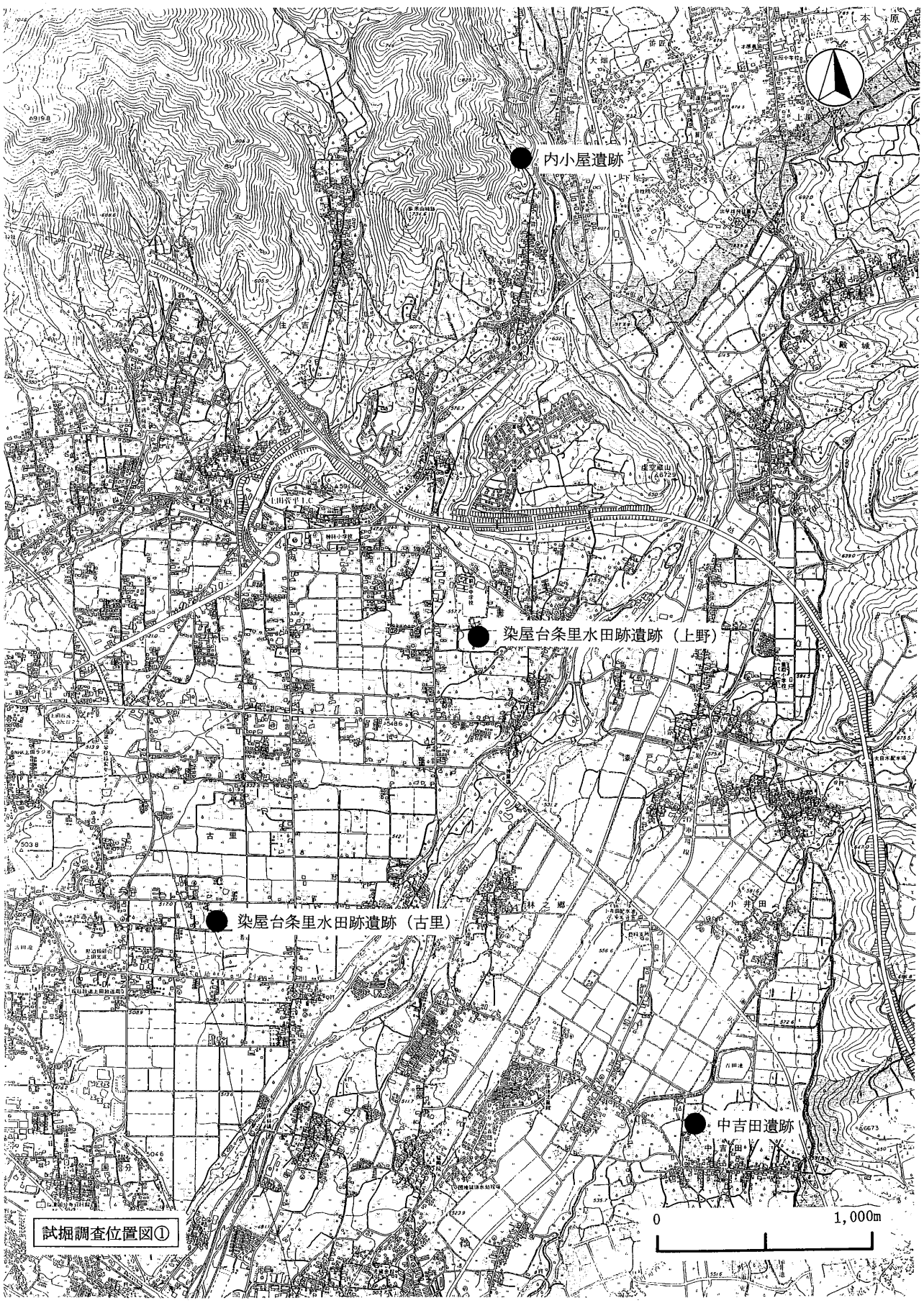
| No. | 年度 | 遺　跡　名 | 調 査 結 果 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | H4 | 柳町遺跡 | なし | |
| 2 | H6 | 染屋台条里水田跡遺跡 | 遺構・遺物等確認 | 古城遺跡として調査 |
| 3 | H7 | 染屋台条里水田跡遺跡１ | 遺構・遺物等確認 | 大畑遺跡として調査 |
| 4 | H7 | 染屋台条里水田跡遺跡２ | なし | |
| 5 | H7 | 染屋台条里水田跡遺跡３ | なし | |
| 6 | H7 | 染屋台条里水田跡遺跡４ | 遺構・遺物等確認 | 古城遺跡として調査 |
| 7 | H8 | 西之手遺跡 | 遺構・遺物等確認 | 西之手遺跡として調査 |
| 8 | H8 | 染屋台条里水田跡遺跡 | なし | |
| 9 | H8 | 上沖遺跡 | 遺構・遺物等確認 | 上沖遺跡として調査 |
| 10 | H9 | 染屋台条里水田跡遺跡Ⅰ | なし | |
| 11 | H9 | 染屋台条里水田跡遺跡 | 遺構・遺物等確認 | 西之手遺跡 |
| 12 | H9 | 染屋台条里水田跡遺跡Ⅱ | なし | |
| 13 | H11 | 染屋台条里水田跡遺跡 | なし | |
| 14 | H12 | 染屋台条里水田跡遺跡(1) | なし | |
| 15 | H12 | 染屋台条里水田跡遺跡(2) | なし | |
| 16 | H12 | 染屋台条里水田跡遺跡(3) | なし | |
| 17 | H13 | 染屋台条里水田跡遺跡１ | なし | |
| 18 | H13 | 染屋台条里水田跡遺跡２ | なし | |
| 19 | H14 | 染屋台条里水田跡遺跡１ | なし | |
| 20 | H14 | 染屋台条里水田跡遺跡２ | なし | |
| 21 | H14 | 染屋台条里水田跡遺跡３ | なし | |
| 22 | H14 | 染屋台条里水田跡遺跡４ | なし | |
| 23 | H14 | 染屋台条里水田跡遺跡５ | なし | |
| 24 | H15 | 染屋台条里水田跡遺跡１ | なし | |
| 25 | H15 | 染屋台条里水田跡遺跡２ | なし | |
| 26 | H15 | 染屋台条里水田跡遺跡３ | なし | |
| 41 | H16 | 染屋台条里水田跡遺跡１ | なし | |
| 42 | H16 | 染屋台条里水田跡遺跡２ | なし | |

以上、試掘調査

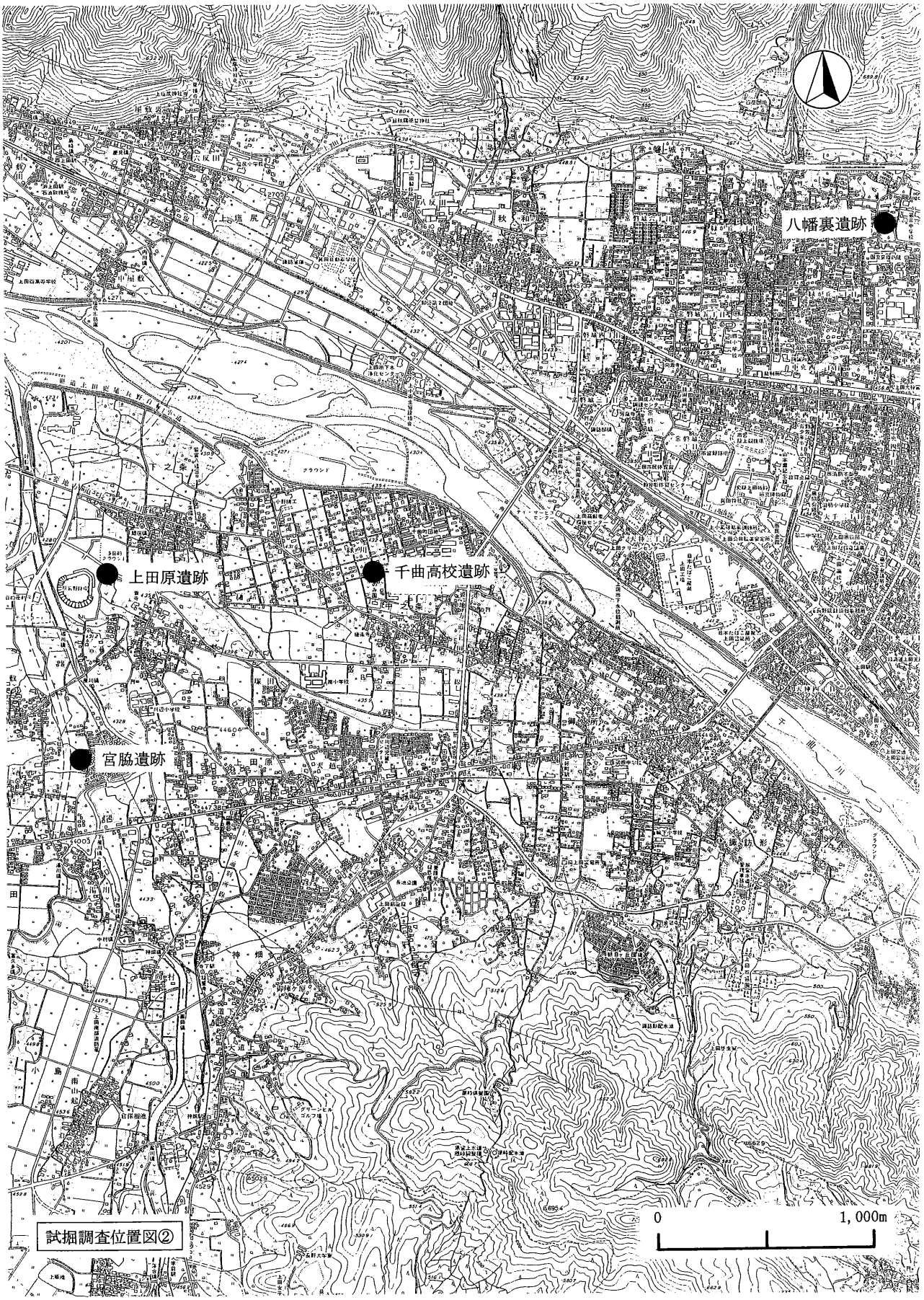
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 27 | S58 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅰ | 古墳後期の遺構・遺物 | |
| 28 | S59 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅱ | 西之手遺跡 | |
| 29 | S60 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅲ A地点 | 弥生・古墳前期と後期の土器片 | |
| 30 | S60 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅲ B地点 | 中世前期の陶磁器片 | |
| 31 | S61 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅳ | なし | |
| 32 | S62 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅴ B地点 | なし | |
| 33 | S62 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅴ D地点 | 古墳後期の遺物 | |
| 34 | S62 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅴ E地点 | 古墳後期の遺構・遺物 | |
| 35 | S62 | 創地の信濃国府跡推定地確認調査Ⅴ G地点 | なし | |
| 36 | H2 | 柳町遺跡 | 古墳後期の遺構・遺物 | 1と同じ遺跡 |
| 37 | H8 | 大畑遺跡 | 中世前期の遺構・遺物 | 3と同じ遺跡 |
| 38 | H9 | 古城遺跡 | 平安後期の遺構・遺物 | 2・6と同じ遺跡 |
| 39 | H10 | 上沖遺跡 | 平安後期・中世の遺構・遺物 | 9と同じ遺跡 |
| 40 | H11 | 西之手遺跡 | 古墳中期～後期の遺構・遺物 | 7・11と同じ遺跡 |

表１　染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

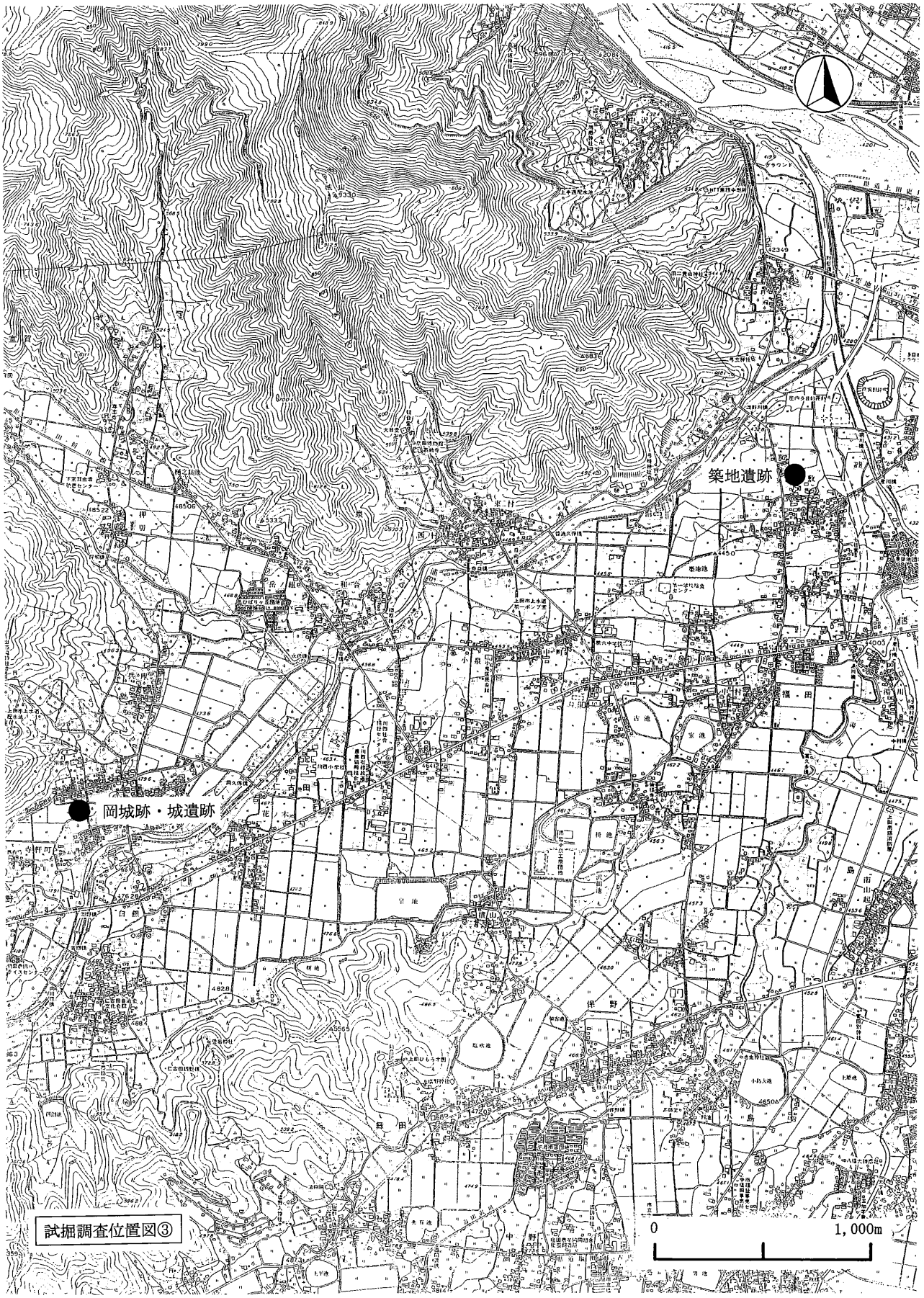
（※ 図表は、調査報告書等により確認できる調査について記載した。また、参考にした報告書名の記載は省略した。）



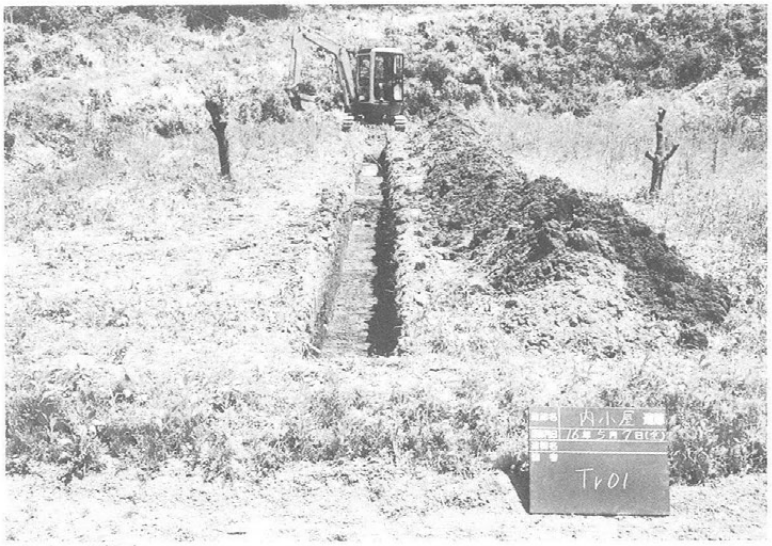

試掘調査位置図①



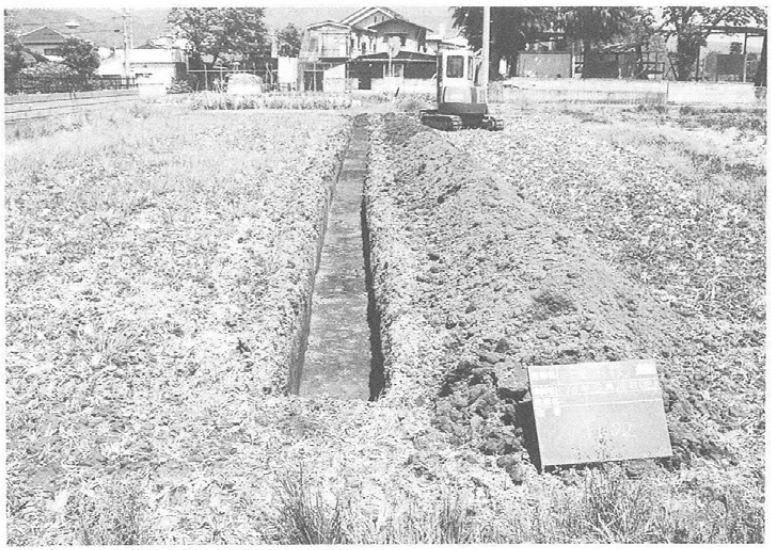

試掘調査位置図②




試掘調査位置図③

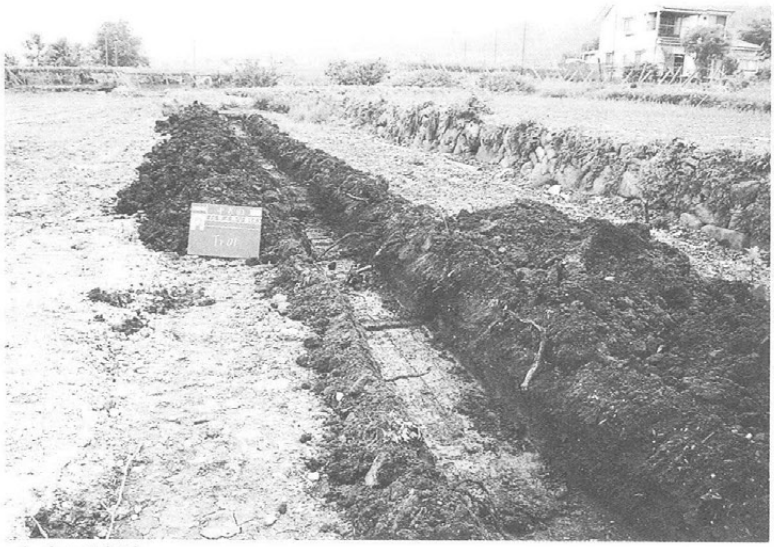



内小屋遺跡



千曲高校遺跡

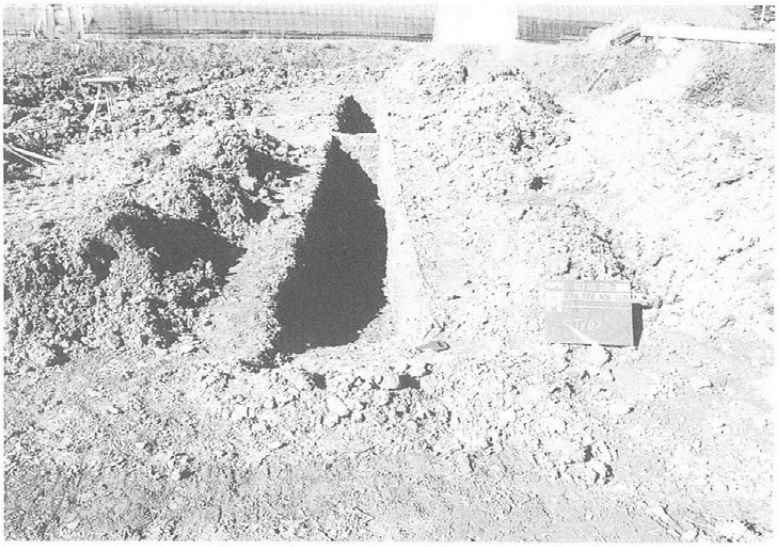
八幡裏遺跡



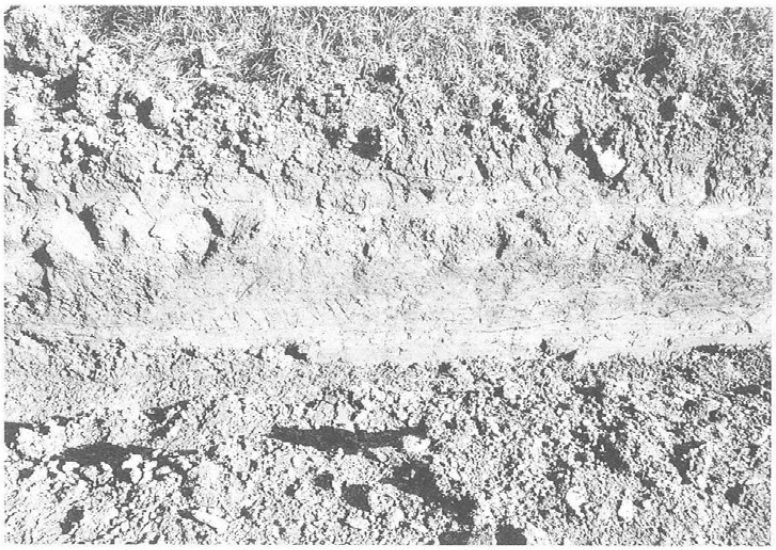
中吉田遺跡

宮脇遺跡

岡城跡・城遺跡（Tr 01）



岡城跡・城遺跡（Tr 02）



岡城跡・城遺跡（Tr 01土層）

岡城跡・城遺跡（礎石）

築地遺跡

染屋台条里水田跡遺跡 1

染屋台条里水田跡遺跡 2

# 調査報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | しないいせき |
| 書名 | 市内遺跡 |
| 副書名 | 平成１６年度市内遺跡発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 上田市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第９９集 |
| 編著者名 | 尾見智志 |
| 編集機関 | 上田市教育委員会 |
| 所在地 | 〒386-0025　長野県上田市天神二丁目４番７４号　TEL0268(23)5102 |
| 発行年月日 | ２００５年3月２５日 |

| 所収遺跡名 | コード | | 試掘・事業区域面積(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|
| | 市町村 | 遺跡番号 | | |
| 内小屋遺跡 | 20203 | 36 | 152 | 鉄塔建設 |
| 千曲高校遺跡 | | 99 | 1,074 | 共同住宅建設 |
| 八幡裏遺跡 | | 64 | 1,877 | 官舎建設 |
| 中吉田遺跡 | | 32 | 2,003 | 共同住宅建設 |
| 宮脇遺跡 | | 112 | 13,011 | 店舗建設 |
| 岡城跡・城遺跡 | | 369・370 | 1,943 | 個人住宅建設 |
| 築地遺跡 | | 111 | 829 | 市指定文化財周辺整備事業 |
| 染屋台条里水田跡遺跡 | | 52 | 2,975 | 共同住宅建設 |
| 染屋台条里水田跡遺跡 | | 52 | 4,606 | 共同住宅建設 |
| 上田原遺跡 | | 110 | — | 耕作地整備 |

※ 遺跡番号の（　）内は「上田市の原始・古代文化」（上田市教育委員会１９７７年）に記載された遺跡番号である。

上田市文化財報告書　第９９集

# 市 内 遺 跡

平成１６年度市内遺跡発掘調査報告書

発　行　　平成１７年３月２５日
発行者　　上　　田　　市
　　上田市教育委員会
印　刷　　田口印刷株式会社